

D R A R T N E R S H I D

第3回全体研修会

開催日 平成19年12月8日(土)

開催場所 大宮法科大学大学院ビル佐藤栄太郎記念講堂

第3回全体研修会は、社会福祉法人高齢者総合福祉施設敬寿園施設長 新井優氏をお迎えし、「どうなる介護保険―介護保険でのケアマネの今後の役割」をテーマにご講義いただきました。

医療と福祉と介護の関係や、提出書類の洪水、厳しいユーザー、管理者の目線を気にしてつらい思いをし、孤立しかかっている環境で仕事をしているケアマネが多いのが現状です。だから今、ケアマネの必要性和役割を真剣に考えることが大事なのです。ケアマネは公的存在であり、マネージメントツールを標準化しネットワークを作るよう工夫することが必要です。

同じ疾病・障害でも生き方が違うのは、その人を不活発にさせている社会的要因があるわけで、私たちケアマネがその要因を探り出し軽減または取り除ければ、驚くほど元気を回復するはずで、そうなるまでの信頼関係を築くことも必要です。国際生活機能(ICF)を重視。標準化し、身につけアセスメントの基本を共有化すること、ケアマネと地域包括支援センターが連携する必要があることを強調されていました。制度が変わっても堂々としていられるよう考え方・方法論を学び直すことが今必要なことと考えさせられました。



Vol.12

2008年初春号

施設介護支援専門員研修の報告

19年度第2回施設介護支援専門員研修

開催日 平成19年9月29日(土)

開催場所 埼玉精神神経センター(中央区)

内容 施設サービスク計画のおける

ICFの活用

講師 神奈川県立保健福祉大学

峯尾 武巳 氏

施設介護支援専門員研修担当では、峯尾氏をお招きし、表記の研修会を開催しました。今回は介護保険施設に従事する施設介護支援専門員および施設職員も対象に、オープン形式(有料)として実施。17名の参加がありました。

先生のわかりやすい講義とビデオ学習によりICFの考え方について基礎理解を深め、具体的な事例に基づいたグループワークを通して、ICFを活用した施設サービスク計画について意見を交わしました。3時間半の長丁場でしたが「もっと聞きたい、話したい!」という活気に満ちた研修会となったのが印象的でした。

参加者からは「ICFの表をどのように使うのがよくわかった」「職場でカンファレンスに活用したい」「介護スタッフ一同、問題志向型に慣れた頭を切り替えていかなければならない」などの意見が聞かれました。

また、アンケートからは「ケアマネの専門性について考え直してみよう」「自分のケアプランを見直してみたい」「プラス志向の実現に大きな動機づけとなった」などの積極的な感想も聞かれました。

来年3月にも峯尾氏をお招きし「ICFの視点を活かしたケアプランを作ろう」をテーマに研修会を予定しています。

平成19年度第1回 いきいき見沼会

開催日 平成19年9月13日(木)

開催場所 敬寿園

第1回目は、さいたま市こころのケアセンターの岡崎直人氏・小川康弘氏をお招きして「依存症とは「関わり方」をテーマに実施しました。前半は、「高齢者とアルコール問題」について

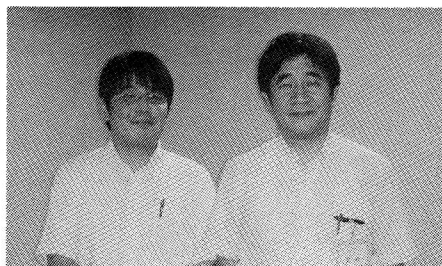
岡崎氏よりご講義いただきました。日本人のアルコールに対する体質でみると、① 全く飲めないタイプ(約1割)、② 飲んだら悪酔いするタイプ(約3割)、③ 悪酔いしないタイプ(約6割)に分類されます。アルコール依存症者の9割以上が③のタイプで、肝臓障害のリスクも高いそうです。自分は悪酔いしないと思っている方、十分お気を付け下さい。

後半は、プロセス依存症について小川氏よりご講義いただきました。ギャンブル・買い物などが例に挙げ、依存症になるとコントロールがで

きなくなり、依存対象以外に興味がなくなりま

す。また、依存を継続するために嘘をつき人間関係よりも依存対象を優先し、家族全体が問題に巻き込まれていきます。家族や依存症者は、苦しみとともに依存症を隠したい、恥ずかしいと思っています。援助者の心得として、まず困っている気持ちを十分聴くこと(安心感)、そして「今の状況から抜け出した」という気持ちを話し

て下さるのなら、依存症に詳しい専門相談を紹介して下さい。依存症者との関わりでは、家族はもちろん援助者も巻き込まれやすいので、専門機関との連携を図り普段からネットワークを作っていく事が大切です。



平成19年度第2回 いきいき見沼会

開催日 平成19年10月16日(火)

開催場所 敬寿園

第2回目は、前回に

引き続きこころのケアセンターの岡崎直人氏、小川泰弘氏にご出席いただき、アルコール依存症や精神障害のあるケースについて2グループに分かれて事例検討を行いました。

今回は岩槻区の会員の参加もあり、交流を広げるよい機会になり

ました。また今抱えているケースの疑問・悩みに対して、その場で専門家の意見を聞くことができましたので、貴重な時間を持つことができました。精神などの障害を抱えた方のケアは、援助者側が問題に巻き込まれたり、判断に迷うケースも多く専門機関との連携が欠かせません。1人で悩むことも多いので自分の気持ちをさせて聴いてくれるところを作り、趣味や気分転換を図ることなど、セルフケアについてもアドバイスをしていただきました。また自分が精神的に不安定だと感じたら、カウンセリングを受けると良いとの意見もあり、カウンセリングする立場として受けることも今後のケアマネ業務の参考になると思います。

より良い支援をしていくためには、自分自身のケアも忘れないようにしましょう。

南区ケアマネサロン

開催日 平成19年11月5日

第2回、南区ケアマネサロンは、11月5日に南区文蔵公民館にて行いました。

普段より業務を行うにあたって、諸記録の管理、保管方法等をどのようにしたら良いか、他の事業所はどのように行っているのか知りたいという意見があったので、今回は諸記録について意見交換を行い、「けやきホームズ」「さいたま市在宅ケアサービス公社」「きらめいと武蔵浦和」での諸記録の管理・保管方法を紹介していただきました。

また、ファイル内保管方法については、利用者毎のファイルに全ての書類を入れていく方や、持ち出す事もあるためファイル内は必要最小限にしている方等、様々な方法を知る事ができ、記録の管理、保管の重要性を改めて認識させられました。

岩槻区ケアマネサロン

11月2日(金)今年度2回目のケアマネサロンが開催されました。

今回は配食サービスの試食会ということで、3社の業者さんにご協力いただきました。



大起エンゼルヘルプの「料亭の味善」はクール宅配便でお届け。主菜1品副菜2品の3品セット。湯煎も

しくは流水解凍して、あとは盛り付けるだけ。料亭の味というだけあって、参加者から「うちのごはんよりずっとおいしい」という声があがりました。

武蔵野フーズは糖尿病食、腎臓病食を提供。こちらは冷蔵で配送し、電子レンジで暖めて食べます。面倒なカロリー計算もいらないし、献立を考えるのが大変という方にはお勧めかも。もうひとつ、社協の配食サービスのお弁当も試食しました。

2社は料金は高めなので、毎日利用というわけにはいかないと思いますが、家族が留守の時とか、治療の為に集中して短期間利用とか、いざという時、ケアマネとして情報を知っていれば、安心です。また、試食していれば、利用者さんにも勧めやすいという結論になりました。

浦和区ケアマネサロン

第2回地域包括支援センター懇親会

開催日 平成19年11月9日(金)

開催場所 浦和区仲町公民館

「自立支援の本質」とケアマネジメンツのあり方：介護予防プランを中心に...

第2回 浦和区ケアマネサロンは、講師に和光市長寿安心課 東内 京一氏をお迎えして行われました。講義内容は、「自立支援の本質」とケアマネジメンツのあり方：介護予防プランを中心に...でした。

浦和区内2つの地域包括支援センター管理者のご参加と近隣の区の会員も交え、28名が参加。内容は「御用聞きケアマネとお手伝いヘルパー」になっていた

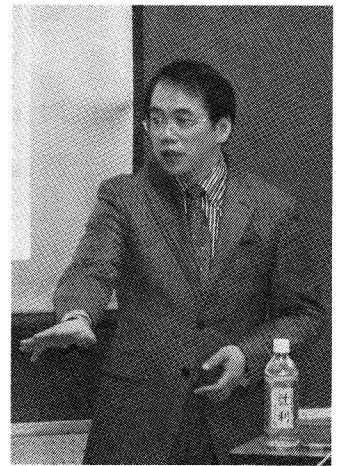
いか!?と、日々の業務における意識の持ち方を問われ、参加者全員が講義に釘付けとなりました。

和光市とさいたま市とでは人口も高齢化率も比べ物にならない位の違いはあるが、改めて「介護保険サービスの本質」「ICFの考え方の大切さ」「的確なマネジメンツとサービス提供」について学び考えさせられました。

講義は質疑応答も含め2時間半行われたが、「足りなかった」「もう一度とアンコールのリクエストを多くいただきました」。

講義内容のポイントは以下の通りです。
☆介護保険サービスの本質とは

○サービス利用が目的ではない。自立する手段としてサービス利用がある。



○だからこそマネジメンツが必要。

○利用者・家族・サービス提供者等関係者のルールとマナーとモラルの理解が必要。

☆ICFの考え方

○環境因子と個人因子の関わり方・心身機能・構造・活動・参加などポジティブなプラス面を重視する考え方になった。

○介護予防も同じ考え方：目標志向型マネジメンツ

☆的確なマネジメンツ

○アセスメント課題抽出→課題解決に向けた支援サービスの検討→チームケア→サービス担当者会議の編成→支援計画からサービス提供の個別計画に継承される仕組み作り→モニタリング

○評価等への関与

☆的確なサービス提供(例)

○訪問、通所、地域支援事業者への研修。個別計画書の作成とモニタリング手法の支援。

○サービス提供手法、技法の支援。

○意欲目標の設定を基本としたコミュニケーション能力の向上支援。

以上です。皆様も機会があれば「東内氏」の講義に参加させてはいかがでしょうか。

中央区・桜区ケアマネサロン

開催日 平成19年11月17日(土)

特別養護老人ホームさいたまロイヤルの園において「話し合おう、訪問介護ステーションと」が開催されました。

地域の訪問介護事業所のサービス提供責任者を招き、各事業所の特色や、利用者支援における困りごとや工夫している点など相互の視点から話し合うことができました。また、要支援、要介護を行き来される利用者への支援のコツ、ケアマネ企業事業所間の報告方法のポイントなど具体例を用いながら意見交換ができ、相互の理解を深めることができました。

ヘルパーの責務が重大になっている昨今、サービス提供責任者は、各ヘルパーが同等の内容、負担になるように留意し、離職防止に努めるなど、苦勞されていることを改めて認識すること

ともできましたし、ケアマネへの要望等貴重な意見を聞くことができました。

日頃ゆつくり話す機会の少ない訪問介護事業所と懇談することで、新たな知識を得ることができました。今後のケアマネ業務への反映が期待できる有意義な時間となりました。

話し合い終了後は会場としてお借りした、さいたまロイヤルの園を見学しました。



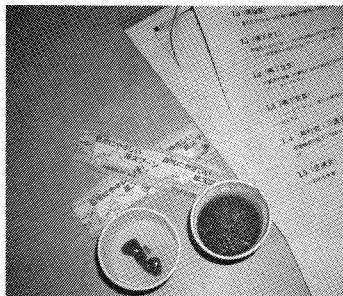
北区ケアマネサロン

開催日 平成19年12月12日(水)

北区では、前回のケアマネサロンをふまえ、第2回ケアマネサロンを医師の立場から、『医療機関との連携の取り方などケアマネへのアドバイス』というテーマで、北区奈良町にあるうぐいすクリニックにて、竹井氏に講演いただきました。

竹井氏からは、ケアマネは『システムの要、チームリーダーである』との言葉をいただきました。実際、診察中にケアマネが同席したケースがあり、話をされたとのこと。積極的に動いてほしいし、応えていきたいとの心強いお話でした。

また、後半には(株)ニフスさんによる嚥下5段階レベルによつてのお茶ゼリーなど、試食を体験させていただきました。今回は30名近くの参加があり、いずれも今後の参考になる有意義な時間を持つことができました。



大宮区ケアマネサロン

開催日 平成19年12月13日

大宮区上小町「特別養護老人ホーム はるばてお」にて、今年度2回目の大宮区ケアマネサロンが開催されました。ゲストに大宮区社会福祉協議会の方を迎え、宅配食事サービスと、あおぞらサービスについての利用案内、大宮区での前月活動実績が紹介されました。住民参加型サービス故の制約もあり、大変な面も多いようです。現在、国の社会保障制度を維持するために、医療・福祉分野では、「地域・連携」が叫ばれており、それは私たちにも必要とされています。市区町村社会福祉協議会が地域福祉推進の中心として、前記サービスの他にも、市場原理にさらされている民間企業では「行きにくいサービス」の開拓・受け入れ、地域

個別のニーズに応じた独自性を発揮し、さいたま市社協パンフレット表紙「地域に生きる一人ひとりが、その人らしく、安心して暮らせるまちをつくり出す」の実現に向けた活動に協力していきたいと思っています。



北地区講演会

北地区の今年度最後のサロンが12月6日(社)永寿荘扇の森に於いておこなわれました。

関西から生活介護研究所の福野初夫氏を講師としてお招きし、「認知症に関するあれこれ」と題する講演と、ひとひねり加えた事例検討、また参加者全員が後ろ手で「鶴」を折る大変困難な折り紙に挑戦させられ、自らの脳内状況を自覚させられる貴重な体験となりました。

今回の事例検討は各テーブルから選出された数名が、会場の外で耳栓とアイマスクを装着させられ手を引かれて「担当者会議」の場に「同席」させられ、自分のことをあれこれ話し合われているなかで「ジツ」としていること、を体験する…と

いう、誠に意表をついた事例検討でありました。耳や目の不自由なご本人がこのような場に置かれるとどんな気持ちになるのかについての疑似体験でありましたが、

「ご本人役の人達の感想は、孤独感を強く感じた」とのこと。今後の課題と感じられました。

講師の福野氏はスーパバイザーとして日本中を飛び回っておられ、関西の介護の雰囲気や伝わる関西弁が楽しく、コミュニケーションこそ介護の原点だと再認識させられた講演でした。



さいたま市介護保険サービス事業者連絡協議会 第2回研修会

開催日 平成19年9月26日(水)

開催場所 ときわ会館

さいたま市サービス事業者連絡協議会主催の研修会で「訪問介護のケアマネジメントを中心に」をテーマに居宅介護支援、訪問介護、地域包括支援センターより各2名

パネラーとして参加し、当協会の会長 清水政和氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションを行いました。この研修会の目的はサービス内容の適切な基準を理

解し、関係機関との連携のもと適正なサービス提供を図ることです。総勢約200名の参加があり、当協会からも約50名の参加がありました。

2006年4月から予防給付が開始されたことによる戸惑いや、困難事例に対して事業所間でどのように連携を図っているかなど、それぞれの視点で意見が交わされました。

悩み、要望など現場ならではの意見は、共感できることも多く、お互いの立場を理解することで連携のあり方を振り返る良い機会になりました。

大宮医師会会員の中で、特に今後の在宅医療に積極的な医師の集まり「在宅医療推進の会」の先生方より、食事を共にしながら、というリラックスした雰囲気を作っていた、さいたま市介護支援専門員協会との懇親会が総勢30名ほどで催されました。平成18年4月に



が上手
くいかなというのは、大きな課題だと思います。特にガ
ン末期、ターミナルケアの利
用者は、特に綿密な連携が必
要だと痛感致しました。

導入された「在宅療養支援診療所」ですが（ワムネット公表）、24時間いつでも連絡を受けられ、他の医療機関・訪問看護ステーションと連携し、24時間往診可能な体制を確保していなければならず、優遇される診療報酬があっても、体力的に無理と届け出を控えたり、届け出ていても、患者負担が上がるため高い報酬は請求していない診療所もあるのでは？との意見が聞かれました。尚、「在宅療養支援診療所」の要件に、介護支援専門員等との連携も入っています。国の社会保障給付費抑制は、全ての社会保障制度に及び、現場の混乱を引き起こしていますが、「在宅医療推進の会」の医師たちは、意欲的で前向きな先生でした。

平成19年12月20日(木) 浦和コミュニケーションセンターにて、精神障害者退院支援事業に関する研修が開催されました。内容としては、以下のとおりです。

- 1 さいたま市こころの健康センター所長 黒田安計氏（医師）より、統合失調症を中心に精神疾患の基礎知識の講義
- 2 「さいたま市精神障害者退院支援事業」について

① 事業の概要 さいたま市保健所 佐藤夏紀 氏

② 障害者生活支援センターの関わり

③ 見沼区障害者生活支援センター 三石麻友美氏
精神科病院での取り組み

浦和神経サナトリウム 愛甲靖代氏
より、それぞれ説明していただきました。

3 「精神障害者の地域での暮らし」について

退院支援の鍵となる「自立支援員」について、大宮区生活支援センター 大澤美紀氏より説明後に、「自立支援員」より実際の活動報告をしていただきました。

長期入院している精神障害者に退院を促していく事は、想像以上に時間と労力が必要。退院後の受入可能な施設や地域の受入体制作りはまだまだ不十分という事が確認できました。各関係機関が共に地域の受入体制を作っていく事を考える良いきっかけになったのでは？今後、各関係機関の理解が深まるが増えていくと思います。「自分には、関係ない」と思わずに参加していただきたいと思います。



ほのほのさんぽ

「名物」は地元の人達！

浦和しぶや苑

松本 幸司

めっきり寒くなってきた。若い時は、寒さなんて何か着ればいいんだから夏よりイイ！と断言していた。最近では、「暑いのも寒いのもイヤ！季節なんていらない！！」年中、春がイイ！！！！とダダをこねるダメ親父になっている。

そんなダメ親父のとある休日。木枯らしに負けじと鼻水と咳を撒き散らしている「ガキンチョ」連れて、埼玉のとある田舎町にお出かけした。

子供は風の子。。。というが、今まさに「ガキンチョ」は風邪の子。ウィルス満タンのドライブは、ガソリンよりもティッシュの燃費が悪くなってしまった。

出先での名物は美味い不味いを問わず食してみるのが習慣。コノ地にも名物があるらしいので行ってみることにした！辿り着いた店は、あきらかに駄菓子屋。入ってみると奥に座敷が広がっていた。運ばれてきた「名物」は、「お好み焼きの

出来損ない：（失礼）「衣無しのおカラコロツケ」の2品。値段は格安で、出来立てアツアツで美味い！！

食べ終わって座敷を見渡してみる。座敷には老若男女問わず地元の人達が次から次へとやってきては「名物」をつつきながら盛り上がりつつある。ソノ場にいる人は皆仲間なノリで、僕らは、いつのまにか地元民の輪に入っていた！

近所にプラツと寄れるとこあれば、自然と人が集まってくる。。。運動教室！特定高齢者限定！！とかって制限をつけない方がイイのかな？なんて考えてしまいました！！

店員さん！明らかに食い逃げさんがいきましたよー！！

！！また来るとは思っけど☆

※コノ町がドコだか分かる人は、かなりの埼玉通？？

事務局より

1. 平成19年度会費納入について

当協会の運営は会員様の会費によって運営されております。未納の方は大至急下記口座にお振り込み下さい。

郵便局口座 口座番号 10320 番号 76599611

加入者名 さいたま市介護支援専門員協会

※ 事業所名で振り込んだ場合、同事務所に複数の会員がいる場合特定できませんので会員名で振り込んでください。事業所名で振り込んでしまった場合は、振込日、事業所名・会員名を事務局までご連絡下さい。

2. 会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会希望の場合は事務局までご連絡下さい。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(財)さいたま市在宅ケアサービス公社内

電話番号 048-645-7470

FAX 048-645-7500

リニューアルしたので見てください～い！！

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>